

# 小児がん診療施設 情報公開

医療機関名	日本大学医学部附属板橋病院	
住 所	東京都板橋区大谷口上町30-1	
施設ホームページ	<a href="https://www.itabashi.med.nihon-u.ac.jp/">https://www.itabashi.med.nihon-u.ac.jp/</a>	
＜＜患者相談窓口＞＞		
名 称	がん相談支援センター	
電 話	03-3972-8111	
F A X		
メールアドレス		
対応可能時間	月曜日～金曜日(病院休診日を除く) 8:30～12:00, 13:00～16:00	
＜＜医療機関相談窓口＞＞		
名 称	患者支援センター	
電 話	0120-700-127	
F A X	03-3972-0018	
メールアドレス		
対応可能時間	月曜日～金曜日(病院休診日を除く) 午前8時30分～午後4時30分	

<b>施設の特徴(アピール)</b>	
当病院での小児がん治療の歴史は長く、多くの貴重な経験が蓄積され、現在治療中の患者さんに生かされています。化学療法、外科療法、放射線治療から造血幹細胞移植までシームレスな対応が可能です。移植の分野では、1) 非寛解期での最適な移植法の開発、2) 晩期合併症低減のため骨髄非破壊的前処置の導入を積極的に行っています。小児外科の分野でも、古くから小児腫瘍を専門としている数少ない施設の一つです。小児外科専門医が、手術と放射線療法を組み合わせた術中放射線療法などの局所療法のほか、より低侵襲で合併症の少ない治療法の開発に取り組んでいます。当院で行われる集学的治療は全て、院内小児腫瘍ボードで決定され、専門チームによって実践されています。さらに、2014年3月から家族の付き添いなしでも化学療法目的の入院をお受けすることが可能になりました。患者さんのご家族にも優しい病院になるよう心がけています。	
<b>診療受け入れ容量</b>	
小児がん病床(対応可能数)	25(小児病棟)
集中治療床(うちPICU、HCU)	12(PICU2床、HCU2床)
外来化学療法(◎実績あり、○可能)	◎
休日・夜間救急対応(◎院外患者対応可能(条件記載)、○院内患者のみ対応可能)	◎ 第2・4火曜午後、第1・2・3土曜午前(小児科)
フォローアップ外来(◎フォローアップ専門外来、○そのほかの外来)(外来日)	◎ 第2・4水曜午後(小児外科)
小児がんセカンドオピニオン対応可能診療科	小児科 小児外科 整形外科 脳神経外科 泌尿器科

診療実績(初発・再発別) (再発例は再発で紹介された症例のみ)	2021			2020			2019		
	初発	再発	合計	初発	再発	合計	初発	再発	合計
造血器腫瘍	12	0	12	7~9	0	7~9	7~9	0	7~9
急性リンパ性白血病	4~6	0	4~6	4~6	0	4~6	4~6	0	4~6
急性骨髄性白血病	4~6	0	4~6	1~3	0	1~3	0	0	0
まれな白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDS/MPDのうちCML	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDS/MPDのうちCMLを除く	0	0	0	0	0	0	1~3	0	1~3
非ホジキンリンパ腫	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3
ホジキンリンパ腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他のリンパ増殖性疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
組織球症(HLH)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
組織球症(LCH)	0	0	0	1~3	0	1~3	0	0	0
その他の組織球症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の造血器腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Down症TAM登録	0	0	0	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3
固形腫瘍	19	1~3	20	12	0	12	18	0	18
神経芽腫瘍群	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3	0	0	0
網膜芽腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎腫瘍	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3	1~3	0	1~3
肝腫瘍	0	0	0	1~3	0	1~3	0	0	0
骨腫瘍	1~3	0	1~3	0	0	0	0	0	0
軟部腫瘍	1~3	0	1~3	0	0	0	0	0	0
胚細胞腫瘍(脳・脊髄病変以外)	4~6	1~3	4~6	4~6	0	4~6	10	0	10
脳脊髄腫瘍	7~9	0	7~9	4~6	0	4~6	4~6	0	4~6
その他の固形腫瘍	0	0	0	0	0	0	1~3	0	1~3
その他の固形腫瘍(具体名)	原発不明悪性黒色腫								

※再発症例は、対象年において他施設から紹介された再発がんの症例です(自施設での再発症例は含みません)。

診療実績(入院数)	2021	2020	2019	2018	2017	2016
小児がん入院患者延べ数	157	134	160	144	112	117
小児がん入院患者在院延べ日数	3,766	4,497	5,497	7,403	6,028	5,964
全入院患者延べ数(施設全体)	18,498	20,876	23,250	22,631	22,632	22,358
全入院患者入院在院延べ日数(施設全体)	237,708	276,189	312,479	307,211	332,024	332,810

●小児がん診療施設の情報公開では、入院患者延べ数=患者入院延べ回数として集計を行っております。(がん患者さんが3回入院されれば3人となります)

診療実績(造血幹細胞移植)	2021	2020	2019	2018	2017	2016
同種造血細胞移植	3	2	6	7	6	10
同胞間造血細胞移植	1	0	2	1	0	1
家族間ハプロ造血細胞移植※	0	0	0	3	0	0
非血縁造血細胞移植	1	1	0	1	0	2
臍帯血移植	1	1	4	2	6	7
自家造血細胞移植	2	0	1	1	3	2
合計	5	2	7	8	9	12

※HLA完全一致または一座不一致の親子間移植も含まず

死亡患者数	2021	2020	2019	2018	2017	2016
血液腫瘍	1	1	1	1	0	1
固形腫瘍	1	2	4	1	0	0
脳・脊髄腫瘍	1	1	0	1	1	1
合計	3	4	5	3	1	2

集学的治療実施体制(10例/年以上:◎、可能:○)	化学療法	手術	放射線
固形腫瘍(下記以外)	◎	◎	◎
脳腫瘍	◎	◎	◎
眼・眼窩腫瘍	○	○	○
骨・軟部腫瘍	○	○	○

療養環境・支援	
面会時間	15時～20時
面会可能者	両親、同胞、祖父母、親戚 年齢制限:中学生以上
集中治療室面会時間	15時～20時
面会可能者	両親、
付き添い(○不要、◎希望で24時間可能、□24時間必要、△夜間必要、▽その他(具体的に記載))	◎ 原則的に付き添っていただいておりますが、付き添いが出来ない患児のベッドは2床程度可能
入院可能年齢	新生児～15歳

相談窓口	○
患者家族宿泊施設(◎敷地内、○近隣)	◎
代表的施設名	ファミリールーム
患者同胞短時間預かり施設(◎院内、○近隣)	
患者家族休憩室(◎予約不要、○予約要)	
院内患者家族会(名称、連絡先)	げんきの会

院内学級(◎:分教室、○:訪問教育)	○
通院患者の通学(○可能)	○
ベッドサイドでの授業(○可能)	○
高校生への教育支援体制(◎:分教室、○:訪問教育)	○
通院患者の通学(○可能)	○
ベッドサイドでの授業(○可能)	○
就学前児童保育	○

診療機能	
病理組織診断	○
放射線治療	○
臓器移植(対象臓器)	
非血縁同種骨髄移植認定施設	○
非血縁同種末梢血幹細胞移植認定施設	○
臍帯血移植認定施設	○
輸血・細胞療法センター	○
集中治療部(◎小児専門もあり、○あり)	◎
長期フォローアップ(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	◎ 紹介状持参
移行医療(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	○
緩和ケア(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	◎ 上限なし
思春期・青年期がん診療(高校生以上)(◎実績あり、○可能)(対応可能年齢)(特色)	AYA世代は、思春期に重なる時期であったり、自分の将来のことを真剣に考え悩む時期でもあり、精神的に多感かつ敏感で不安を抱きやすくなっています。様々なことを経験したり見聞きする中で、患者さんご自身が病気のことも含めて人生プランなどを深く考え、意思を持ち表出されます。社会生活の中で、AYA世代がんの患者さんは、小児がんの患者さんとは異なり、社会人としてより幅広く悩みを抱える場面も多く見受けられます。とりわけ妊孕性はその一つで、プライベートに配慮しながら個々の患者さんの考え方に寄り添った診療が求められます。当院では産婦人科や泌尿器科、小児内分泌専門医と連携し、患者さんに適した妊孕性温存などの診療を行うことができます。このようにAYA世代がんの長期フォローアップ診療では、身体のみならず心理的、さらには社会的サポートがより重要となり、小児血液専門医が複数の外来枠で対応させていただいています。また、長期入院となっている就学児については、原籍校より都立北特別支援学校へ転学し、当院内で訪問教育を行っています。小学校1年生から高校生までが訪問教育の対象となり、週3～5回授業を実施しています。訪問教育を受けることで、原籍校へ復学した際の学習の遅れを最小限にとどめる事ができ、就学に関する不安等が解消されることにより、入院生活の質の向上が図れるなどの効果が期待されています。平成29年度より担任以外に支援員が導入され授業以外の自習の支援を行っています。

専門資格保持者(小児がん診療に実際に携わる人員)			
日本小児血液・がん学会 専門医	○	日本看護協会 緩和ケア認定看護師	○
日本小児血液・がん学会 指導医	○	日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師	○
日本小児血液・がん学会 暫定指導医	○	日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師	
日本小児血液・がん学会 認定外科医	○	日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師	
日本小児外科学会 専門医	○	日本小児がん看護学会 小児がん看護師	
日本小児外科学会 指導医	○	日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師	
日本小児科学会小児科 専門医	○	日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	○
日本小児神経学会 小児神経専門医	○	日本医療薬学会 がん専門薬剤師	○
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	○	日本臨床細胞学会 細胞検査士	○
日本病理学会 病理専門医	○	日本医学放射線学会 医学物理士	○
日本血液学会 専門医	○	日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	○
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	○	日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	○
がん治療認定医機構 がん治療認定医	○	日本病態栄養学会/日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士	○
日本放射線腫瘍学会/日本医学放射線学会 放射線治療専門医	○	日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー	○
日本医学放射線学会 放射線診断専門医	○	日本遺伝性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー	
日本緩和医療学会 緩和医療専門医	○	チャイルドライフスペシャリスト	
日本緩和医療学会 緩和医療認定医		ホスピタルプレイスペシャリスト	○
日本看護協会 がん看護専門看護師	○	子ども療養支援士	
日本看護協会 小児看護専門看護師		保育士	○
日本看護協会 地域看護専門看護師		ソーシャルワーカー	○
日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師	○		

臨床研究(小児がん診療に関する試験数)	
臨床研究支援センター	○
参加臨床試験数(治験を除く)	22
治験実施(有○)	
治験実施内容	